

# 令和4年度第1回恵那市総合計画推進市民委員会 会議録

日時:令和4年8月30日(火) 午後1時30分～

場所:恵那市役所 災害対策室

1. 開会
2. 委嘱書の交付
3. 会長・副会長の選任
4. 副市長あいさつ
5. 総合計画推進市民委員会委員の役割について
6. 議事
  - (1) 総合計画の進行管理について
  - (2) 総合戦略の進行管理について
  - (3) 地方創生交付金事業の効果検証について
7. その他  
報告 恵那市SDGs未来都市計画
8. 閉会
9. 会議公開・非公開・・・公開
10. 出席者の数・・・13人中11人(以下のとおり)

	氏名	選出団体等	備考	出欠
1	赤井 恵美	公募		出席
2	市川 祥子	恵那商工会議所		出席
3	伊藤 孝行	十六銀行恵那支店		欠席
4	岩井 慶次	恵那市防災研究会		出席
5	大嶋 直子	恵那市民生委員・児童委員協議会		出席
6	紀岡 伸征	恵那市社会福祉協議会		出席
7	國枝 悟	恵那職業安定所		出席
8	佐藤 亜弥美	公募		出席
9	芝田 幸代	恵那市恵南商工会		出席
10	西尾 修欣	恵那市教育委員会		出席
11	西尾 ひろみ	恵那市農業委員会		欠席
12	服部 敦	中部大学	会長	出席
13	平林 道博	恵那市地域自治区会長会議	副会長	出席

11. 傍聴・・・2人

## 1. 開会

定刻となったので開会する。私は進行の企画課長の和田です。よろしくお願いします。  
本日の会議は、恵那市附属機関等の会議の公開に関する要綱に基づき原則公開とする。会議終了は午後3時とする。

## 2. 委嘱書の交付

■事務局（進行） 本来なら一人一人に委嘱書を渡すところだが、コロナウイルス感染拡大防止と時間の関係で机上に配布してある。氏名を確認してほしい。

自己紹介をお願いする。次第裏面に名簿がある。3番伊藤委員、11番西尾ひろみ委員は欠席。

- 赤井委員 公募委員。大井町の恵那峡の辺りに住んでいる。
- 市川委員 前回に引き続き委員を務める。商工会議所から来た。旅館いち川をしている。
- 岩井委員 恵那市防災研究会で地域安全の面から発言したい。
- 大嶋委員 民生委員・児童委員協議会の主任児童委員会児童福祉部会の会長をしている。
- 紀岡委員 社会福祉協議会から選出されて来た。
- 國枝委員 ハローワーク恵那の所長をしている。
- 佐藤委員 笠置町から公募で来た。笠置町の移住定住委員会、地域未来塾の講師をしているのでその点から意見を述べたい。
- 芝田委員 恵南商工会女性部。明智から来た。
- 西尾修欣委員 教育委員会の教育委員を務めている。
- 服部委員 中部大学から来た。
- 平林委員 恵那市に13ある自治区の地域自治区会長会議から来た。
- 事務局（進行） よろしく申し上げます。

## 3. 会長・副会長の選任

■事務局（進行） 恵那市総合計画推進市民委員会第5条により、会長は委員の互選、副会長は会長が指名するとある。会長の互選についていかがするか。

[ 「事務局一任」の声あり ]

■事務局（進行） 事務局案により推薦してもよいか。

[ 「異議なし」の声あり ]

■事務局（進行） 会長に服部委員を推薦する。よろしいか。

[ 拍手する者あり ]

■事務局（進行） 承認をいただいた。服部会長は会長席に移動してください。

設置要綱により、副会長は会長の指名となっている。

■会長 13 番平林委員にお願いしたい。

[ 拍手する者あり ]

■事務局（進行） 平林副会長は副会長席に移動してください。

一言ずつ挨拶をお願いします。

■会長 大事な会議であるので有益な意見をいただけるよう進行に努める。協力をお願いします。

■副会長 令和3年度は第2次恵那市総合計画後期実施計画の5カ年計画のスタートの年だ。初め良ければ終わりよし。市民の視線で施策を評価し、総合計画の具現に向けて一歩でも近づきたい。

#### 4. 副市長あいさつ

■副市長 委員に就任いただきありがとうございます。

恵那市の取り巻く状況を話す。

コロナ感染症は第7派に入り、8月2日に118人、8月6日に101人と多くの方が感染した。8月16日の週は70人で推移、23日以降は50人ぐらいで推移している。昨日は9名という発表だったが、先ほど確認したら50人ぐらい出ている。感染拡大のピークは過ぎて減少傾向にあるが、下げずと行くということにはならないと思う。学校が始まるので対策をしっかりしてほしい。

災害。8月10日に大雨が降った。上矢作、明智、串原で多く降った。時間雨量50mmを越し、1日80mmを超した。上矢作の万場地区、丸河興業の近くで市道の路肩が崩れて通行止めになった。今日は台風11号で、進路を注意深く見守る必要がある。線状降雨帯は発達して大雨が降り続けるので、情報を市民にしっかり伝えていきたい。

プレミアム商品券を経済対策で行っており、金曜日に締め切った。今年度から電子商品券を取り入れた。紙と両方ある。デジタル化に市民が付いてくるようにということで、デジタル化の方はプレミアム率15%、紙は10%上乘せしているが、デジタルの方は使い方や使える店が少なかったり心配なこともあったりしたようだ。電子が7,000シート、紙は24,000シートなので、3倍以上の差がある。今後引き続きデジタル化が御理解いただけるように工夫したい。

岐阜県では高山市のさるぼぼの地元通貨で1カ所と養老の2カ所しか行っていない。先陣を切ってやっていく。大変だが工夫してやっていく。

#### 5. 総合計画推進市民委員会委員の役割について

■事務局（進行） 委員が改選となった。留任の委員もあるが、改めて委員の役割について説明する。

[ 事務局（企画課 大竹）から資料に基づき説明 ]

## 6. 議事

■事務局（進行） 議事進行は服部会長にお願いする。

■会長 できるだけ多くの皆さんに発言いただきたいので、発言はコンパクトにお願いします。発言してない人には最後に発言をお願いしたい。

### （1）総合計画の進行管理について

### （2）総合戦略の進行管理について

〔事務局（企画課 大竹、紀岡）から資料に基づき説明〕

■会長 質問、意見があれば。

■國枝委員 資料2の6ページ1. (1) 新規高卒者のハローワーク恵那管内事業所への就職数割合。基準値 31.1 とあるがどう算出したのか。過去何年かから出していると思うが。

■商工観光部長 平成 31 年の市内高校生の就職希望者数 131 人中、市内企業への就職者数が 41 人。それで 31.1%となる。

■國枝委員 前年は管内就職率が高かったが、その辺を加味されているかと思ったが 31 年のみということ。毎年大体 3 割ぐらいが管内で就職されている。一昨年はずっと高い管内への就職率だった。コロナの関係で高かったのかと思う。安心して働ける地元ということで。コロナがどういうものか分かって昨年は下がった結果、基準値に達しなかったのかなと思う。

市内ピーアール動画というのはジョブナビのことか。労働対策事業費のところ。

■観光商工部長 ジョブナビ。

■國枝委員 ジョブナビは会社の雰囲気、先輩、担当者の生の声が聴ける非常にいいものだと感じた。ぜひ引き続き、事業所の数を増やしたり、年度が変わったりしたら更新するなどしてやってほしい。

■岩井委員 14 ページ「災害から命を守る」。地域安全ということで、特にハード整備のことが書いてある。まちづくりを考える中で、ハードウェア、ソフトウェア、ヒューマンウェアの3つのバランスがとても大事ということなので、ハードだけでなくソフトウェア、ヒューマンウェアのことを書いてほしい。防災の担い手ということを見ると、地域住民のみならず、地区防災計画の中で本年度は学校を基軸ということも新たに出てきたので、中学生、高校生の担い手づくりということもお願いしたい。

後の方で、36 ページ、今回は E。コミュニティセンター改修はすばらしい取組だ。僕らも大井町まちづくりをやってきて、大井町と長島町が地域の振興事務所がなく、公民館的などを併せて整備を御願いし続けてきたが未だにできていない。地域の活動拠点が

大事だ。大井と長島の振興事務所の体系づくりをお願いしたい。

■総務部長 防災では初めにハード整備がどうしても必要で、税金をそこに入れがちだが、9月4日に恵那市の防災訓練を3年ぶりに開催する。ここで災害対策本部を開設するが、地域での防災力を主眼に、学校を中心に、生徒も入れた快適な避難所をどう構築するか、若い世代の意見をいただきながら、市民と市が一緒になって防災避難所の構築をすることが重要になる。9月4日に皆さんと見てほしい。ヒューマン、ソフトの構築、さらなる進捗は岩井委員と同じように重要だと考える。

■まちづくり企画部長 大きな宿題を頂いた。以前からそういう声がある。大井自治会館が大井小学校の下にありそこが大井住民の拠点になっている。防災訓練でもそこが拠点になる。継続して宿題としたい。

■岩井委員 車椅子で利用できるようなものが不可欠なのでお願いしたい。

■まちづくり企画部長 建設から長く経っている。そういうものも必要だと考える。

■佐藤委員 一般市民、子育て世代、Uターン者という視点で見た。帰ってきて思うのが、子供のゲームの時間が長いとか、ユーチューブをずっと見ているという問題。自主学習の時間が少ないということ。そういう問題の一つ一つが、親の意識の問題が多いと思った。意識の低い人を底上げするのはエネルギーが必要だ。意識の高い人、ポテンシャルがある人が恵那から流出していることが問題だ。大学で出て帰ってこないとか。帰ってきてても出してしまうとか。それを防ぐのが大事だ。その意識を上げることが重要だ。

大事になるのが、意識の高い人が戻って来たいと思わせるには、グローバルスタンダード、いろいろな人がフラットに生きられる社会や、ヨーロッパ基準で見るとエコとかオーガニックとか、ヨーロッパでは一般的になっていること、都会で「いいよね」と言われていることに恵那市が取り組んでいけば、恵那ってすごいなと思われる。指標の中にも、男女共同参画がなかった。エコ的な観点でも指標を細かく具体的に、河川の水質完全の数値目標とか、地産地消ではフードマイレージの数値とか、そういう目標をしっかり取っていくことが重要だと思う。

■会長 話は広範囲だったが一つは指標の設定について、さまざまな観点が必要であるということ。

■まちづくり企画部長 男女共同参画では、資料2の37ページ「担い手」の中に、男女かわりなく社会に参加できるように取り組むというのがある。男女共同参画は別途独自のプランがあり、そこでも進行管理をしている。その進行管理の指標が、毎年の市民意識調査でどういう考えを男女が持っているとか、世の中が平等かという項目で推移を見て、足りないところを埋める推進取組をしている。近年ではバローの2階にえなえーるという場所を設置した。非常に評判がいい。今まで女性の仕事だったものを男性も一緒にやってみようと、父と子の料理教室とか、そういう取組もしている。えなえーるの主たる目的は女性活躍の場。男女問わず平等に取り組める社会実現を目指すように取り組んでいる。

■副会長 評価の全体のことについて。2ページ。こういう評価をするということは、仕事の改善のためと、市民への説明責任のため。市役所がどのように頑張りどういう成果を

上げたかを認めてもらうことだと思う。2 ページの説明が分かりにくい。評価の基準と評価の水準はどう違うのか。そういうことを書いてほしい。水準では令和 3 年度は 20%達成で D を獲れば O ということになるのか。

評価で何パーセント達成というのはいいと思うが、去年までは、「目標指標に達しなかったが概ね成果が得られた」「目標評価が良くないが取組が前進した」「今後事業の廃止をする」という今後のことが書いてあった。未来に向けて評価してあった。今年は何%だけで、市役所の人は E のオンパレードでいいのか。腹が立たないか。一生懸命仕事をして E ばかりだが、それは当たり前だ。5 年後の目標に合わせてやっているのだから。1 年間の目標でやらないときと来年も E になる。

D が取れば A で、E の中でも 19.8 とか 10%を超えたものもある。それが B、C、D、E になるのではないか。

4 の総合評価の方法も、目標指標中、最低ランクを総合評価のランクとするとされたが、これだと来年からも E ばかりだ。

3 ページを見るとそう悪くない。S2 つ、D もある。でも E が 1 つでもあれば E にするということになる。E の中味を追求して、改善すべきことはどこかというようにするといえると思う。どうしてそういう評価報告にしたかを説明すると市民も分かる。

■会長 評価方法について、説明が足りないという意見だが改めて説明を。

■事務局 総合評価の方法は内部でかなり議論した。この記載に至るまで紆余曲折した。3 ページ、S や D があるのに平均をとってそれを記載して評価を試みたり、いろいろ内部検討した。が、やはり 5 つの評価項目を出してその結果の最低を出そうということに落ち着いた。来年変えるかどうかは時間をいただきたい。評価方法の記載の中味を充実して市民に分かりやすくしたい。自分たちに厳しく表記したということだ。

今後の方向性については、評価シートの 3 ページ、それぞれに紐づく事業名を書いている。それぞれの目標達成のための重点項目、改善すべき点に記載している。昨年度までは全体の方向性のところに書いていた。

■会長 評価の考え方については、平林委員の言われたような意見もあるし、一方で、平均化すると見えなくなるという意見もある。これは自らに厳しくというタイプの設定。一つでも悪いものがあれば悪い方に合わせるという考え方。5 年間で最後の目標に達するので 1 年目はいいわけがない。5 年間でどこまで最終目標に近づくかを示そうとしていると考えると理解できる。

一方で、それじゃあやる気がなくなるという考え方。最初の立ち上がりが悪く見える。中身が隠されているとそういう問題がある。それぞれの項目についてはっきり示されていて、市民の方が見える。指標単位で見れば進捗が分かる。総合評価は厳しいが事業単位では分かる。そういう考え方もある。この形で事務局は始めてみたいということだ。それを見守っていただき、意見を出していただいて、方向性について議論しながら評価の在り方についてもどの段階で見直していくのかも含めて議論を重ねてほしい。現段階では事務局の方針が出されている。説明が足りないところはしっかりして進んでいただければと

思う。

■副会長 やり直せということではない。今さら戻れない。前に向かっていくための評価だ。なぜ最終年度の目標に照らし合わせたかとか、指標中の最低ランクを総合評価のランクとしたかについて、考えをこの後ろに2、3行でいいので書き足してほしい。

■会長 今の目線で工夫していただきたい。

ほかに意見は。

■紀岡委員 8、9 ページ。安心して暮らす。福祉総合相談窓口の連携評価。社協でも行政と協働で包括的な支援体制の構築に向けて、相談窓口にも職員を置いて進めている。多機関協働とか地域づくりの面も積極的に取り組んでいる。重層的支援体制整備事業に向けて、今は移行準備の事業の段階だ。3、福祉総合相談窓口の連携強化の基準値 130、目標 180。これは具体的にどういうものを示しているか。

■医療福祉部長 今までは、例えば高齢者のところは高齢者だけの相談、児童のところでは児童だけの相談だったが、1つの家庭に介護、教育の問題があり、それが1つのところで全て分かるというということで、福祉総合相談窓口を開設した。その中で、複数の部署にまたがる相談件数が130。これを180にしようとしている。市民の相談を聴くと、解決できないこともたくさんあり、1回の相談で終わったり、どこにも相談できずに引きこもっているという課題も見えている。今年度からアウトリーチ支援事業で、こちらから引きこもっているところへ積極的に出ていく要員を2名配置して、相談を掘り起こしていく。それで目標を180に設定した。

■市川委員 22 ページ、いきいきと暮らすの3(1)、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある(小6)」の全国平均との差、-0.4。この具体的な内容と、23 ページの目標達成のための問題点があり、この全体を見たときに、林業の人など、資料の3の10 ページなど、こういったところの数字が良くなっている。あと、歴史に関してや、ICT、教育以外にも、市内の商品券に取り組んでいたりと、デジタル化に力を入れているまちというイメージを持っている。それと並行してSDGs未来都市に認定されたということで、恵那市はどういった方向性でいくのかを、感覚的にも分かりやすく、観光のような形でピーアールして、恵那市としての自己肯定感を上げることによって、子供たちも具体的に分かりやすいし、事業者としても何に取り組んでいけばいいか分かる。担い手が学校関係以外にもということで、例えば農業や林業の人とサービス業の人とで、項目が違うことに貢献できることが自分から発信できる仕組みがあるかと思う。

また、IT化、デジタル化に関しては、世の中にすでにあるQRコードのような簡単なものを取り入れてくれると、高齢者も多いので「難しいからやってほしい」と言われることがあるが、どうやったら全員に伝わるのかということも含めて、ピーアール上手になってほしい。

■会長 IT化とデジタル化の推進について。

■まちづくり企画部長 当市もICTの推進に特に力を入れている。国でもデジタル田園都市構想というのがあり、国を挙げて地方のICT化を強力にバックアップしていく体制

となっている。日頃から市長も言っているのは、地方都市は交通の便も流通の便も良くないというハンディキャップがあるが、そういうところこそ ICT が強力な武器になるということ。情報がすぐに手に入り、それを自らの生活に生かしていくことが中山間都市の切り口になる。そのために ICT 推進計画を策定し、身近なところで簡単に情報が手に入る、暮らしのヒントが受けられるというところを目指している。反面、取り残される人があつては施策としてはまずい。一人も取り残さない。これは国も言っている。そのためのスマホ、ICT に慣れていただく啓蒙、啓発もしている。市内を業者の協力で巡回しているが、移動スマホ教室をしている。えなえーでもスマホ教室をしている。スマートフォンや ICT へのアレルギーを取り除く強力な取組も必要だと考えている。

■副会長 35 ページ。21 の施策中、唯一、S。経常収支比率、実質公債費比率、よく分からないがそういうのは健全だと思うが、中身で数値が上がっていい結果が出ているのは、何かの取組によるものか。

■総務部長 3 つの指標を説明する。

経常収支比率は、毎年恵那市が必ず支払わなければいけない経費。職員の人件費、扶助費、これは福祉に使うお金、例えば高校生まで医療費無料化するというようなこと。

公債費、これは借金を払うお金。このようなものが、市税などの一般財源がどれぐらい上げられていたのかを見る。現在 81.5%。これが 100 に近づくと、この 3 つのお金を払うだけでほかの道路や施設を作るお金はなくなる。70~80%なら健全。

実質公債費比率は、借金返済のために通常見込まれる収入。この先、負担しなければならぬお金、通常入ってくる税金、収入に占める割合を言っている。これが将来の財政を圧迫する可能性がある。この数字が 0.3 で極めて低い。市税で今年度の決算で 70 億円を少し切るぐらいの収入だった。他は、国からもらう地方交付税を頼りに、市の運営を行なっていく。

一番努力したことは、事業をやるに当たっては、自分の懐を痛めずに国や県の補助金を有効に使い、市税を簡単に使わないこと。こういう努力でこのような数字がある。毎年予算編成時にチェックするのでこのような結果が出る。恵那市の財政は今のところ健全である。

### (3) 地方創生交付金事業の効果検証について

[ 事務局 (企画課 大竹) から資料に基づき説明 ]

■会長 総合戦略に効果があつたかどうか評価することになっている。事務局としては「効果があつた」ということで良いか?ということだが、いかがか。

効果があつたかと問われれば、「あつた」という結論で良いか。

■岩井委員 恵那山麓の野菜の事業は、今は交付金でやっているのですが、常設にした方がもっと面白くなると思う。恵那テラスでも販売もやっている。固定客も付いている。そうい



う意味では販路が開けると思う。特に無農薬、安心野菜ということで売れば多少高くてもいけるのではないか。

■会長 今の意見を意見欄に加えてほしい。

■佐藤委員 アエルサイトの訪問者数がありどれぐらい買っているのか。実際の PV が分かるといい。

■事務局 実数は今持ってきてないが、数字は分かるので評価の中に根拠として入れたい。

■会長 示してほしい。

交付金の評価としては「効果があった」とし、岩井委員の意見を意見欄に加える。

全体をとおして市政などに何か意見はあるか。

■赤井委員 恵那市には都会にはない自然が多くあり、それが強みだと思うので、それを生かしてもっと大きくアピールして住みたい、訪れたい町につなげるような広報をすといいいと思う。先日セントレアの動く歩道の壁に恵那市の写真が並んでいて、恵那はやっぱいいところだと思った。そういう方法でアピールしてほしい。

■会長 あの写真好い。前向きな応援の意見を頂いた。

■大嶋委員 恵那市は本当にいいところだ。いいところがいっぱいある。自己肯定感を若い母親や子どもたちが持てるような活動ができるといい。昨年、恵那の木がいいので、恵那の木で作ったスプーンを生まれてくる子どもたちに恵那の職人が作ってプレゼントするという企画を提案したら、企画課も林政課も子育て支援課も健幸推進課も集まってくれて、1年間で達成できた。今年の4月から子供たちに木のスプーンを渡している。そのとき、主任児童委員の仕事は何かといつも問われるが、そこで児童委員に来てもらって、母親が焼きペンで木のスプーンに名前を入れるときお手伝いしてもらっている。

私も3年間恵那市の子ども子育て会議に出た。すごく深い内容が話し合われていることが分かった。そこで若い母親がたくさん意見を言っていた。0~18歳まで市が無料で責任をもって見守るといのはすごいことだ。今年の4月頃に、東京でも来年からそれをやるというニュースに出たので恵那市はすごいと思った。そういうことが子ども子育て会議で提案されてそれが実際にできていく。職員の資質も高いのだと思う。

去年から恵那木育クラブという森林環境教育の会を立ち上げたが、その会にも林政課の人が毎回来てくれて、9時ぐらいまで話し合いに付き合ってくれる。今年7月に広報えなに恵那の木育という特集が組まれた。その中で、恵那市で木育の活動をしているのいろいろ出ていた。県もかかわっている。その広報の記事を読んだ若い母親が入ってくれた。広報が出てから8人も増えて今40人近く会員がいる。若い母親の意識が高くていい恵那市にしようと思っている人がすごく多い。来年度はそういうのがここに上がってくると評価が上がると思う。

■会長 ぜひ取組を続けてほしい。

■芝田委員 10月に山城サミット、11月にWRC。WRCは私も楽しみだ。山城サミットのことをもう少し早く情報が入ると動ける。商工会でも、女性としても、何ができるか考えないといけない。早めに情報がほしい。WRCのTシャツがほしい。市民としては欲し

と思う。スタッフしかもらえないのか。総合評価は謙虚過ぎるので上げてもいいとも思う。

■会長 情報発信を早めに。

■西尾委員 武並の19号沿いに道の駅を作る計画。市内に現在3カ所道の駅がある。県下でも誇れる集客数のものもある。岐阜県内の19号沿いの道の駅は中津川市の賤母のみだ。賤母に負けないような構想を作って、既存の道の駅に負けないような計画を立ててほしい。

もう一点。5年ごとに総合計画を作る。前回か前々回、新規入学児童数を年間450人にするという目標があった。今は半分ちよつとだ。目標が達成できなかったものは、なぜできなかったか見直して、そこから新たな目標設定ができると思う。児童数は学校教育だけでなく全てのことにかかわってくると思う。まちづくりを語るには住民の数が絶対的な数字となる。どんな事業計画も振り返りながら立てて遂行することが大事だ。

■会長 2つ目の点については、後期基本計画を立てる際に定義したものがあると思う。情報提供をしていただき御意見をいただきたい。

## 7. その他

### 報告 恵那市SDGs未来都市計画

[ 事務局 (SDGs推進室 後藤) から資料に基づき説明 ]

■会長 これで議事を終了する。

■事務局 (進行) 次回は来年3月を予定する。

## 8. 閉会

■副会長 御苦労さまでした。

■事務局 (進行) これで閉会する。

[ 閉 会 ]